

思　　い　　出　　す　　ま　　ま

清水 達 雄

生まれたのは、1928、昭和3年7月27日。辰9年、くわしくは戊辰、明治の始まりとほめて、これは還暦のまゝ理をしていたのだと折に、気付きました。牛込、いま新宿区の中山伏町49番地。父の趣味で、創美閣という、東半分は住宅、西半分は小劇場の、変わった造りでして。大通りを隔てた南にモダン様式の牛込電鉄局、さらに愛日小学校——孫永生先生の「若き日の思い出」に出てます（16-20ページ）。その先、琴の宮城道雄邸、物理学校のち、理科大学になって、外堀とまると、飯田橋、その先の富士見町に、曉星学園がありました。曉星小学校3年の夏休を目前にして、虫垂炎になり、見立てば遅れ危いということで、早稲田の国山病院にかかって、大手術、傷口を閉じるまでの包帯交換は、苦痛でした。病室には氷柱、ベリリン・オリンピックの放送は聴いていました。上野動物園の黒ヒョウ脱出、捕獲の記事で、トコロテニ作戦というのが解りませんでした。夏休を捧にしていた退院でしたが、うちに生えていた標本室への御案内。ガラス大鉢中に、木扎ったまげがぶかいているソーセイ風のものは、全く別格で棚上に鎮座する、私の虫垂標本。手術して下された副院長

先生が、御説明下さった。下部の割れ目から見て7mの寶石
なるもの、それで腹が浅くないで済んだ、と云うでして、

中学に進んで太平洋戦争。課外授業の体制で、私は科学班
に属した。東京初空襲、1942年4月18日、科学班例会日で、
九段上の高台から目撃した。帰宅後、新南で岡山病院は全焼
した、指揮よりしく怪我人方して賞讃された。しかしあの
標本は失われたのだ。帝都空襲で面目を失った、海軍は、
ミッドウェイ占領作戦を策動するが、これに裏目が出てしま
い、6月5~6日、機動部隊を失った。

43年の文化勲章、湯川秀樹・高木貞治、これと刺戟を買っ
てある「近代数学史談」、扉の上部左に2603.4.26とある。
皇紀がから660を引く。2604.1.7に、4読了。5同月に進み
10.22に6同目(完読)とある。と云うで解のところが、定
めていない。と云う、数学少年に化かった。

44年、4年修了で東京高等専門学校高等科への編入受験。理甲
はスルで、理乙に合格。乙と云うのワドムツ語と主に学ぶ。
龜尾英四郎先生、定冠詞の変化

デル デス ダム デン

血下吐いって覚てなさい。もう一人、富山芳正と生中、此
うのワドムツと読してねえ、下眼がみで見据え

フランス語じゃ、ありませんよ。

晩星の制服を着てゐたのだ。級主任の三輪彰先生、何か
来たか。数学では、黒須康久先生に手晴した。

45年に入ると、勤労動員がなくて、教人の班に介介と、
消防署勤務。私達も牛込署で、まず望楼勤務だ。上まで
見て登る。野煙突で覚えるのだが、煙の出るのを右から。
夜の丁度近く、酒井邸の大空を空屋敷に泊る。麻雀をよ
かった。明けると帰宅だが、自宅に近くなると、牌の預り後
方。ある日、空襲で酒井邸の煙突、私達一家は母の指図
で逃げ廻る。意外にも軍馬が馳せて、道を往復する。それ
を避けるのだ。夜明けると、大通り口、下町方面から
、新宿日差し避難民の群れで一杯だ。うつろを睨付て
てととととと進んでゆく。消防署も焼けた。放水しながら
後退、牛込比町付近は焼けた。署も牛込郵便局に移
り、望楼勤務も青天下の麻雀に豹変した。そして勤労動員は
日中の軍有の鍋物工場に移った。

鉄の四角の箱で、底を高く井桁に打って、特別
な砂を入れ、鉄棒で突き突いて回す、木製の枠を当てた。
これ二つの一方を裏返しに合わせた。突き回すのが不充分だと、
裏返しで砂が落ちてくる。

戦争は終る、という報が、廣く流れる。世の中は此の如き。

者も出て、尤もこの書庫時には、機銃掃射があった。道路脇に
隠れる。次の日だ、たゞ、戦争は終った。

校舎は大部を焼失してゐた、コックソート構造物は大丈
大で、国学の先生が保証し、近隣の小学校へも、机を貸し
受けた。一人用へ小土佐机を抱き持ち下りて、よろよろ歩
で、珍無類だが大にためて、運び込んだ。こゝで授業再開。
教科書を読むが、講義などは、お灸の毒を以て清めて、
おつて退室、多摩川へ散歩。

46年より、一高に同居となり、安倍龍成と藤原正、その
両校長が挨拶は、白髪で口髭と半禿で白髪との、対峙に見
える。関米拒否で栄養失調死したと、龜井先生に聞いて、
高橋義孝先生ドイツ語、余談が面白かった。

大学入試必死、こゝに意外な状況がある。受験者も多く
2倍を超え、東大理学部2号館大教室で、使われた。毎年の
方々が多い。こゝで問題を解いてゆく。出来た、と速く
鉛筆を運い出ると、見直して誤り気付く、黙考して直る。
こゝで合格である。

講義、こゝに岩澤健吉先生の話、華晴さんと思えて、なお
小松勇作先生の話、物理などよく知る大人数相手。で、息が
切らぬの御熱望がある、環が返さぬと返して貰った。

2年次の、岩澤先生のリー環論は、聴講者も多かった。存在
 官澤弘成君の助け、重大な指針を得た。東京高等学校尋常科
 生と接して、理甲から物理へと進んだ秀才で、主たる夏休にも
 図書館に通ったりの数理論家。その御礼に、物理では、リー環
 $ab - ba$ だけでなく、 $ab + ba$ というジョルダン積も、
 要るのだと気づいた。等心して、一般論を目指していった。
 定数 α, β に對する $\alpha ab + \beta ba = a \circ b$ 積のうちに、また
 $\alpha + \beta = 1$ といふ全行列環への、quasiassociative,
 20のリー環、 $\alpha = \beta = 1/2$ のジョルダン環、その3種で、
 単純環は盡くされたといふ、証明を果した上である。

General theory for associative, Lie and Jordan algebras

国学院学会があり、その中にいたった岩澤先生が、下して、
 Albert に渡した。評言は、素晴らしい。全環子と環理
 の出来へにたつた。

岩澤先生の帰国をたず、私は経済学部大学院に学士入学、
 「国学院論」を説き及ぼした。古谷弘先生の演習では、
 先生の向い下座に私、両側に一般学生諸君、先生は私に念を
 押しての進行だった。その古谷弘先生も渡米された。私は
 再び数学研究へ。数学教育を遂げて、大学院だった。

東京工大の遠山隆生、黒田茂郎さん、中谷大郎さんなど、
数学教育協議会が奔走したのも、参加した。417

「新100数学教室」新評論社、53年11月

に、「実務」「中国へ数学教育」を書かせてもらった。

417で、数学教育協議研究会というのを生じたので、年長
で代表格をとった私は、新数学人集団、昭和毎と12月8日、
と提案して賛同を得た。新建築家集団（NACU）から採った
名。機関誌「月報」を出し、発刊を上げた。53年10月15日
3号には、東大新数学人集団、理大民科、東大有志、京
大有志、国大有志、九大民科、連合機関誌、4巻1号より
「数学の歩み」と改題された。数学史の会という、学術会と
作った。

54年夏、母の意見もあり、清水建設の、研究所に入社。
417冬、谷山豊が逝った。追悼文を「自然」誌に載せたのが
やったのだった。

清水の研究所は、研究所と名を改め或は17中、所長は
久良知雄二郎さん。副は航空出身の大塚志夫さん、主任研究
員として近藤芳美さん。同僚として太田利彦君が加わった。
東京高裁理甲出の後輩。「研究所報」創刊。1号に太田君の
「設計組織と設計方法に關する研究、IとII、動線計画、数
学の解析（第1報）」、私の「間取り——長方形分割の記号

論(1)」に載っている。こゝから号を重ねると其の成長がよく、後にはもう、全然だ

「方形分割」日本評論社、1979年4月

フランスの数学者集団ブルバキの、「数学原論」訳出の経緯、隆工出版改の東京回費から来る、66年11月22日に最初の会合。原書10部門別の担当者、つぎのとじに決めた。前原昭二、銀林浩、森毅、小島順、小針明宏、柴田泰光、杉浦光夫、倉田令二朗、齋藤正彦。右に数学家、村田全に清水建雄。以上の12名と出版社との間で、67年5月14日に、契約書を取り交した。この席で、長期にわたる大事業であることを押し、社に本座町23の田中ビルに入って、訳語小委員会、そこで月一回は中心の集まりをした。和気よくやって来た。右に「数学家」は、単行本のあと

「数学家」、上よりちくま学芸文庫、2006年2月

ところで私は、数学家のミッドウプリングに会った。もう一つの大事な修行、飲酒のミッド、オザキ須田町一丁目、須田町ビルホールでの生ビール。近くの龍角館の若旦那は、よくお見掛けした。山崎パンの若い方もよく利用した。このホールからの尾緒を、鍛冶町のアルカドに、寄ってみたい。もっと上を歩いて新宿の、ミッドに会った。

仏文の辰野さんも、お見掛けした。銀座ではまがアソババ。
これより獲てい、伊藤姉妹の店になせうつて、姉さんは病
で亡くなった。妹、旺子さんは長いこと合っている。
また併行して、神田神保町でもよく飲んだ。飛騨では、記
碑で、神田まで行、て飯山も見学した。後、岡山へ行って、
原研の、照射実験の標的にもなった。

東京ポリンスホテル、ホテルオークラ、ニュービヤパン、
ニューオータニなどもよく利用した。

語学勉強も続けた。住居は慶應義塾大学の真裏の、
習字の土。カニスクリット語初歩を、前田専學先生から、
教わった。1971年春より72年にわたる。ローマ字化のため、
梵字の自分で勉強した。それから20年、アラビア語初級を、
稲葉隆政先生から習った。アラビア語で1週2回は、25分
もつた。試験までたびつて。よい成績で、表彰状を
もらった。平成3年9月30日付で、表彰状は20日付で。
以上で

「文庫と言葉の世界一冊」東京図書、78年12月
より実際に、世界一冊、客船飛鳥で果している。

96年3月1日 - 6月3日